

近年、整形外科は脊椎外科、手の外科、関節外科などの専門分野に細分化していますが、当科ではほぼ全ての分野を網羅しており、全道各地から患者さんが集まります。最近の情報化社会の世相の下、セカンドオピニオンを求めて来院する患者さんが多いことも当科の特徴です。スタッフが普段から心がけていることは、患者さんの話をよく聞くこと、それを基に的確な診断をし適切な治療方針を立てることです。保存的治療の工夫をし、手術が必要な場合には最先端の治療をより安全な方法で行うことを基本方針としています。主な専門分野と特徴を紹介します。

整形外科 部長

佐久間 隆
リハビリテーション科部長兼務

脊 椎 疾 患

脊椎疾患では、明らかな麻痺がある場合以外は手術適応を厳密にし、手術をする場合は内視鏡椎間板摘出や経皮的椎弓根スクリューを用いた前方固定などの低侵襲手術を心掛けています。高齢化社会を反映し腰部脊柱管狭窄症の手術件数が増えているのが特徴的です。また当科では変性疾患だけでなく救命救急センターに搬入された脊椎外傷をはじめ他院で行われた手術後感染症例、透析性脊椎症なども手がけています（脊椎・背髄外科専門医・奥村潤一郎と中山央が担当）。

手 ・ 肩 関 節

手の外科は、日常的に多い腱鞘炎から、骨折、脱臼、靭帯損傷などのケガの治療、しびれや麻痺に対する神経疾患の治療を行っています。複数の手の外科医が在籍し顕微鏡を用いた難度の高い機能再建手術も可能です。外来では超音波検査により軟部腫瘍、腱損傷などを速やかに診断し、希望により日帰り手術を行っています（手の外科専門医・佐久間隆、平地一彦）。肩関節は最近、診断と治療が進歩した分野であり、肩腱板断裂や肩関節脱臼には積極的に鏡視下手術を行っています（平地一彦）。

関 節 外 科

股関節、膝関節を主とした人工関節置換術は2009年は56例（整形外科全手術は745件）であり、内訳は股関節34例、膝関節18例、肩関節3例、肘関節1例でした。人工股関節置換術では術後、早期離床と脱臼防止目的で、近年、普及している小切開の前方アプローチも行っています（股関節専門医・平山光久）。

地 域 連 携

総合病院であるため、他科疾患の合併（透析、糖尿病、循環器疾患、感染など）症例を診ることも多く、他科の協力の下、より安全に治療できるよう工夫しています。高齢者の大腿骨近位部骨折例が増加していますが、一昨年から開始した大腿骨近位部骨折地域連携バスに則り、患者さんがよりスムーズに社会復帰できるよう、担当医師（高橋敬介ら）、リハビリ、地域連携センター（MSW）が速やかに連絡を取り合い、回復期病院での適切なリハビリ治療が継続できる体制の維持に努めています。



週3回症例検討のカンファレンスを行っています。

右側奥より佐久間・奥村・高橋医師。

左側奥より平山・平地・中山・宮腰医師。